

光を照らす

闇に隠された資金を突き止めることは、ガバナンス強化を意味する
デビッド・リプトン

世界GDPは昨年、87兆ドルでしたが、1980年のわずか11兆ドルから大幅に増加しています。GDPは幸福を示す数多くの指標のひとつに過ぎないかもしれませんが、その伸びは驚異的です。ただ、世界GDPのこうした成長を祝う前に、世界経済の闇を示す以下の数字について考えてみましょう。

7兆ドル

世界GDPの8%に相当するこの数字は、オフショアの金融センターに隠されていると見られる私有財産の推定額を表しており、こうした富の多くが不法行為に由来するものだと思われています。

1兆ドル

ある試算に基づくと、この1兆ドルという金額は汚職など世界の腐敗を3分の1減らすことで達成できる政府歳入の増加額です。

これらの数字は、世界経済の暗部、つまり徴税、規制、法執行を担う政府当局の手を逃れた資金の存在を明確に示しています。汚職によって不正に得られた資金、また、規制格差の悪用や、脱税に相等するとも考えられる税務上の住所の利用がもたらす利益の存在が浮き彫りになっています。総じて、これらは公益を損ねるものです。人々の生活の向上に使うことができたはずのお金が失われているのです。デジタルファイナンス、暗号資産、サイバー犯罪の台頭によって、課題はさらに困難なものになります。いわゆるダークウェブを考えてみましょう。盗まれた身分証明情報から武器・麻薬まで、あらゆるものがこの闇市場で売買されています。

これらの慣習は、その合法性にかかわらず、世界各国の政府歳入に大きな影響を与えており、「国際社会は規制上のグレーゾーンを除去すべきだ」という声が高まっています。しかし、これは法執行の問題だけではありません。

政府は、世界経済の急速な変化への適応を迫られています。変化にうまく対応すれば、多大な利益を生み出せるかもしれません。この点はもちろんフィンテックにあてはまりますが、暗号資産にも同じ

ことが言えるかもしれません。

一部先進国で成長を促進するため、新興市場国でのインフラ建設のため、発展途上で医療や教育を改善するためなど、政府資金の必要性は高まっています。そのため、数兆ドルもの資金の流出は、私たちの幸福に対して脅威となります。これは、政府への信頼低下を助長し、格差や貧困など重要な経済問題を解決する力を蝕みます。

IMFの研究によると、認識されている腐敗の度合いが低い国では公共投資プロジェクトにおける浪費が著しく少ないことがわかっています。低所得国を例にとると、腐敗度の高い国では教育と医療に充てられる予算の割合が3分の1低いのです。そうであれば、社会支出の有効性も低下します。

こうした問題にどのように対処すべきでしょうか。

IMFはこの分野での大きな貢献を目指しています。私たちは、20年近くにわたって、各国の政府当局、国際機関、民間セクターと緊密に連携し、資金洗浄やテロ資金供与と闘ってきました。財政の透明性向上、そして増加傾向にあります。腐敗抑制に向けた取り組みの最前線に立ち続けてきました。

ここで重要なのは、ガバナンスにとって中心的な概念です。つまり、無数ある詳細にわたって国が経済政策をどのように定義、実行するのか、どのように法の支配を遵守するのかという問いです。昨年、IMFはガバナンスへの関与強化を目的として、徴税、中央銀行、金融監督や金融市場規制など、経済との関連性が最も高い機能を網羅した包括的な枠組みを採択しました。

ガバナンスの強化は容易ではありません。長期にわたる継続的な努力が必要となります。ガバナンス強化は正しいことであるだけでなく、何百万人もの人々に具体的な利益をもたらします。協力し合うことで、成功をより確実なものにできるでしょう。**ID**

デビッド・リプトンは国際通貨基金 (IMF) の専務理事代行。



写真：ISTOCK / RICHLEGG, KATV